

勝林寺寺報

教学上守らなければ、
ならないことは、ど
んなことか。

れたことをいうのです。
そこでいちばん大切なことは、こ本願
の聞き方、聞きぶりです。　どのように
聞くか。聞いたよろこびをどう伝えるか
このところを踏みはずしては浄土真宗
でなくなるかもしれません。

「開山さまは、「信の一念」「聞の一念」ということを頭してくださるなかで、「聞くといつても、このような聞きようであつてはならないのだよ」と、『涅槃經』の一節を引いて戒めてくださつています。」

「門主さまは全国くまなく寺やご門徒をお訪ね下さっています。」「ご巡教」といいます。ご門徒とのお話し合い法座のなかでは、いろいろな問い合わせされます。

『本願寺新報』という新聞には、これらの問い合わせについての記事が毎号のせられています。今回は勝林寺住職が担当しました。

「教学上守らなければならないこと」とは、要するに「聞法・伝道するうえで守らなければならないこと」という意味でしよう。ご本願を聞かせていただき、聞いたよろこびを人にお伝えするうえで、心がけ守らねばならないことを、いまみんなでハッキリしておきたいというお気持ちからの問い合わせでしょう。

それでは、このことについての(1)開山様のおもとしを『教行信詔』(信金。甘穂250)に直接うかがってみると、(1)にこたしもします。

先ず第一に、仏法の一部分の理解だけで物知り顔をしたり後世者ぶるではない。我が身勝手な心得顔はいけない。凡夫の浅はかな知恵でご本願がわからうはずはない。我が身あり顔の計らいで聞くのでではなくて、「如是我聞」——ご本願のありのままを無我に素直に聞かせてもらえよと教えてくださいます。

次に、全部のお経のおこころを読み取り理解することをしないで人のために解説しても、なんら人をご本願に引き入れることはできないとご指摘くださいます。

また、たといお経やお聖教を全部読み理解したとしても、自分の後生の一大事のためではなく、ただその仏法の知識を使つて議論をするためであつたり、他人をやつっけるため、また世間の名譽や利益を得るための闇法・伝道であつていいものであろうか。

生田あいさんは九十九歳。明治二十八年、日清戦争の年の生まれですから、明治・大正・昭和・平成をまるまる百年生きとおしてこられました。ご子息俊雄さんご夫妻の忙しい毎日を助けて、今でも田中、家の留守番をしてくださいます。数年前念願かなってすばらしいお仏壇を俊雄さんがしつらえてくれました。朝夕礼拝したりお正信偈をあげたりするのも張りがでます。お念佛一筋、信ひとすじに生きて来られたあいさんが、老いの一念から、お寺の如来さまにと俊雄さんを通じてお供えをしてくださいました。

本堂余間卓の三真足、最高級品を購入させていただきました。

親孝行な俊雄さん夫妻に支えられてお念佛のいのちを健やかに生きられますよう念じます。

老いの信の一念

おみのりを聞くわたしゃも、よろこびをお伝えようとしている人も、ここにあらためてこの三題についてお話を聞かねばならぬと申す。

）」のような「題」を「聞不興足」（不完全な聞きよう。まゝとうでない聞きぶり）ときつく戒めてくださっています。

十一月のこよみ

出石の町の若婦人の閑法会を「十六夜会」といいます。当初正福寺の「院家さまの」指導を頂いていましたが今は町内七ヶ寺が講師・会場とも輪番で当たっています。今年たまたま正福寺会場のときに三〇周年を迎えたわけです。

十一月十六日による8時。記念法座があります。(講師は正福寺山崎一朗)住職です。

二二二日	運動本部第四部会
二二三日	口小谷報恩講
二四四日	奈良教区巡回
二五五日	中央相談員連絡協議
二六六日	野尻・矢根報恩講
	みのりを聞く会
二七七日	矢根報恩講
二八八日	年末事務
二九九日	住職会
三一一日	除夜会

A detailed black and white line drawing of a stylized floral or foliate motif. It features a central, pointed, heart-shaped leaf or flower head surrounded by smaller, serrated leaves. Long, sweeping, curved stems extend downwards, ending in large, textured, fan-like shapes. The style is characteristic of medieval or early printed book illustrations.

九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日
同	保谷・日殿報恩講・区長会	奥小谷、合同役員会	福願寺報恩講	奥栗尾・口栗尾報恩講	平田專福寺報恩講	夕知・佐田報恩講	奥栗尾	○
中央基幹運動推進委員会	大阪教区僧侶研修会	本山研修部第二部会	同上	同上	同上	同上	同上	同上

法輪会で



「苦惱は、忘れようと努めることによつて解消し得るものではない。いやでもおうでも、事実は事実としてごまかしなく認めることなくしては、苦惱からの解放はありません」

仏教の指し示す悟りへの道を教えてくださるある書物の、こんなことはに出でさせていただきました。

「苦惱は、忘れようと努めることによつてなくなるものではない。」

ところが私達、差し迫った苦しみ不幸に出会いと、瞬間、それに蓋をし、田をそらし、忘れよう逃げようと努めます。

「くよくよするな」と自分に言い聞かせ、酒や娯楽で気をまぎらせ、「時がたてばなんとかなるさ」と時の流れに身をまかせて、その場の安易な世界に逃げ込んでしまいます。あたかも、生死の激しい流れのなかに浮かぶウタカタ(あわ)の中にいるようなものです。

今日わたしたちは「法輪会」という御法のご縁にあわせていただきました。

「法輪」というのは転輪聖王という理想の王が、御法を護るために使う車輪のような形をした鋭い武器なのだそうです。そしてその法輪という武器には、摧破(打ち砕きやぶる)力と輪転(そのままからめどる)はたらきがあるのだそうです。

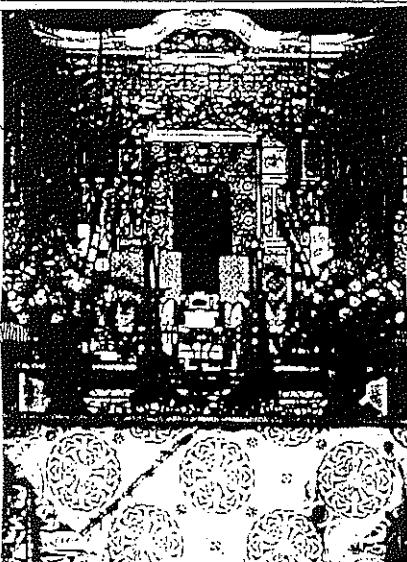
「法輪会」という聞法のつどいは、そうしてみれば、(法身の光輪)といわれる如来さまの光明の法輪に、私がかぶつている無明のからを砕き破られ、ありの

ままの苦惱煩惱のわたしに気づかせていたく、同時に、煩惱具足のそのままが「解脱の光輪」といわれるお念佛の法輪にからめとられ摄入されつづるこの「法輪会」であったと聞かせていました。「身とめざめさせていただく」縁が、きょうの「法輪会」であったと聞かせていました。

身とめざめさせていただくことでした。

寒波のなかに咲いた花

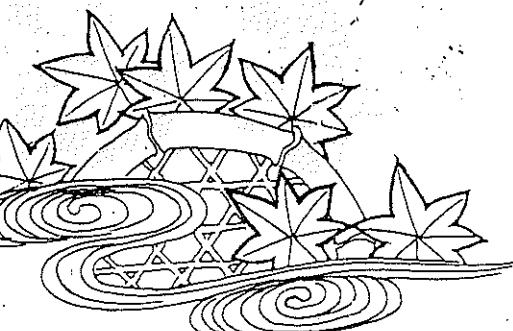
報恩講



十八日夜、みがき奉仕をかわきりに報恩講の準備が始まりました。仏社仏婦の役員さんを中心に二十名ばかりで、仏具のお磨き、お墨足盛り、内外陣の清掃をして頂きました。次の十九日には早々と「まん幕」「仮旗」までかかつてしましました。ところがそのころから、一挙に寒い風雨が荒れ始めました。関森さんが前々から手入れ清掃してくださっていた境内も落ち葉で埋もれてしまう始末。冷たい雨の中を懸命に仏花の材料集めに奔走くださった鶴井孝さんのお姿は貴いことでした。梗見の花づくりのご婦人方、ほんとうに沢山ありがとうございました。おかげで最近まれなすばらしい立華を鶴井さんに立てていただきました。坪口梗見それに仏婦役員の皆さん、おときの用意、毎年のことながら感謝し尽くされません。寒風荒れ模様のなか宮崎千秋さんのマイクロバスのおかげで、案じてましたのに、おときに着いた人数だけでも夜七〇、星五〇でありました。ことにご講師明元寺さまのご法話で、お念佛がとても身じかにいただけ思ひがしました。

みなさんの力ぞえで、今年もありがたく勤めさせていただきました。

家庭報恩講を大切に



お寺の報恩講が終わりました。これからよいよご門徒のおうちで報恩講が勤まります。

報恩講とは、浄土真宗を開かれた親鸞聖人をお慕い申す法要です。では朝祝機鳥さよりってどんなかた?。

先ず第一に

「宗教」と呼ばれるものがこの世には五万あります。しかし、そのほとんどが(まじない・祈祷)つまり、ひたすらにつかの間のしわせや自分の利益を仏や神におねだりする「欲ぼうけ宗教」ばかりではありませんか。

そのなかにただ一人、眞実のお淨土に生まれるまことの宗教は、如来さまのおはたらき、「お念佛」以外にはないと、キッパリはじめを立てて示し頼してくださいのが親鸞さまです。

それから第一番目に親鸞さまは、南無阿弥陀仏の如来さまは、誰ろう、この泥まみれ煩惱まみれの私のために、量り知れない遠い昔から今に至るまで、願いとおに願い、働き通しに働いてくださっている。つまり、泥凡夫の私こそが、如来さまのまさしきおめあてであったと、親鸞さまは身をもって教えてくださった方です。

第三番目に親鸞さまは亡くなつて八百年たつた今でも、私がお念佛申すとき、いつでも私のすぐそばで、「一緒にいるよ。共に歩もうね。御同行・御朋よ」と、私を力づけ励ましてくださいます。その方が親鸞さまです。

大根漬たくあん

大根収穫の季節になると今年も方々からお問い合わせが来ます。前坊守が残していく漬物。

(材料)

①大根 10kg ②塩 2合。三五度の焼酎 2合。砂糖 1kg。③昆布・てんとう少々。

(漬け方)

①大鍋に②を混ぜ合わせます。それに大根をくぐらせる。それを漬物桶に並べて漬け込みます。

大根の間に2~3cmに切った昆布やてんとうを適宜はさみます。適当な重しを置く。二日ぐらいで水が上ります。十日も立てば食べられます。それに大根が大きければ二つ割りにすればよろしい。

12月	
1日	朝8時より 夜8時より
2日	朝8時より
5日	朝8時より
6日	朝10時より
12日	朝10時より
14日	昼3時より
15日	昼3時より
16日	朝7時より
17日	朝7時より
18日	朝7時より
19日	朝8時より
21日	朝7時より
23日	朝7時より
26日	朝6時より
27日	朝7時より

親鸞さまはだから「おとうさま」のような方。観如上人は『報恩講私記(式)』という文章でこのように親鸞聖人を仰がれました。それ以後、せめて一年に一度、親鸞さまの「命日の法要を家々でいとみ、それを通して、今もこの私に願い働いてくださる如来さまに気づかせていただきましょうと、「ほんこさん」という法要を、ご門徒のどの家でもどの村でもお勤めすることになったのです。

勝林寺では次の日程でお勤めします。(一月以降の分は後日連絡します)